



「パピヨン（2017年）」 | 編集部おすすめの新作映画



フランスの著名な映画批評家、アンドレ・バザンは言っています。「映画の美学は現実を明らかにするリアリズムであるべきだ」と。

映画とは、各時代を映し出す、鏡の一つと言えるかもしれません。そしてその鏡は、私たちが生きる現代を俯かんして見るための手助けともなるのではないでしょうか。

“今”を見つめるビジネスマン/ビジネスウーマン必見！オススメの最新映画をご紹介します。

© 2017 Papillon Movie Finance LLC. ALL RIGHTS RESERVED

フランスの作家アンリ・シャリエールのベストセラー自伝小説をベースとした映画『パピヨン』。1973年に公開された初演に胸を高鳴らせ、スティーブ・マックイーンとダスティン・ホフマンの熱演に感動の涙を流した人も多いはず。

44年の歳月を経て『パピヨン』を蘇らせるのは、ハリウッドで今、最もホットな俳優であるチャーリー・ハナムと『ボヘミアンラプソディー』でフレディ・マーキュリーを演じたラミ・マレック。決して廃ることのない普遍の名作を再解釈し、新たな脱獄映画の金字塔が誕生した。

パピヨンの【あらすじ】

1931年のパリ。胸に蝶（パピヨン）の入れ墨があることから「パピヨン」と呼ばれる男、アンリ・シャリエール（チャーリー・ハナム）は腕利きの金庫破りだったが、裏切られ殺人の冤罪で終身刑となってしまう。

恋人に「俺のことは忘れろ。」と言わざるをえないほど、収監されるフランス領ギアナの流刑地は悪名高く、刑期を終えても生きて戻ることはまずできない。加えて、容赦なく囚人たちを処刑する看守やハンターたち、鬱蒼とした熱帯雨林に覆われ、四方を海に囲まれた徒刑場からの脱獄は命がけだ。

だがパピヨンの胸は自由への渴望と、裏切った者たちへの復讐で静かに燃えていた。脱獄を決意したパピヨンは、通貨偽造の罪で終身刑となったルイ・ドガ（ラミ・マレック）に目をつける。ドガの隠し金と命を守る代わりに、脱獄に必要な資金を提供させる。

当初こそ反発しあう二人だったが、共に過ごす内に唯一無二の強い絆が生まれる。脱獄と投獄を繰り返すパピヨン、ドガや脱獄に加わる仲間達、命がけの挑戦の果てに、男たちは求める自由を手にすることができるのか？

© 2017 Papillon Movie Finance LLC. ALL RIGHTS RESERVED
パピヨンの【みどころ】

あまりに有名な作品のリメイクは、制作陣のプレッシャーもかなりのものに違いない。本作も例外ではなく、だからこそ初演の焼き直しには絶対しない、という意志がみなぎっているようだ。

パピヨンとドガ二人の関係に焦点を絞っているのもその1つだろう。初演で描かれたパピヨンの変化・・・徒刑場や脱獄を繰り返すたびに出会う人々との交流を通じて変わっていく・・・は、人は人に影響され新たな自分を見つけることができると私たちに教えてくれる。今回は対象をパピヨンとドガに絞り、初演とは異なる新たなストーリーを開拓する。

徒刑場に着くまでの船内で起こる血なまぐさい事件をきっかけに、守り守られるドガとパピヨンの契約関係がはじまる。そんな二人の関係は、徒刑場に着いてからより強固になる。看守と手を組んだ囚人たちが襲い掛かると、水浴び中で丸腰ながらもパピヨンは立ち向かい、ドガは見ていることしかできない。現代も多く囚人が晒されているという、地獄のように劣悪な収監環境を生々しく描き出す。同時に、物語が進むに連れて起こる、ドガの芯の強さを感じさせる大きな出来事への予兆ともいえるだろう。

初演『パピヨン』でも印象深い、独房でのシーンは必見だ。孤独と飢えに耐えるパピヨンに、ドガが手をまわし毎日ココナツの実を割った物が差し入れられる。所長にそのことがばれたパピヨンは、沈黙を守り食事を半分に減らされるか、ドガの名前を白状して食事を得るか試される。

身体と精神、どちらの崩壊が先か。あるいはどちらも取り返しのつかない所まで蝕まれてしまうのか、独房の中テラテラと青白く光るパピヨンの瞳が忘れられない。自由への執着、生き抜いてやるという覚悟は、脱獄を繰り返す度に高まるようで、今度こそ！次こそは！と私たちに希望を与える。そしてパピヨンの自由への切望は、脱獄常習犯の行く末、最期の地と言われる悪魔島に送られてもなお変わらない。

悪魔島でドガとパピヨンの繋がりはより深まる。流れに身を任せるようにパピヨンと過ごしてきたドガが「自分はこうしたいんだ」と伝える時、それまでの彼の繊細さや危うさを知っているだけに、自分がパピヨンだったら・・・と考える。

もしかしたら「お前の意思なんていいから！」なんて言ってしまうかもしれない。だがパピヨンはそうしない。信頼しているからこそドガの意思を尊重し、自分の意のままに動かそうなんて考えもしない。二人の選択にすっと胸が爽快になった。

© 2017 Papillon Movie Finance LLC. ALL RIGHTS RESERVED

《作品データ》 映画『パピヨン』 6月21日(金) TOHOシネマズ
シャンテ他全国順次公開中 監督：マイケル・ノア 脚本：アーロン・グジコウスキ『プリズナーズ』 出演：チャーリー・ハナム『パシフィック・リム』『キング・アーサー』 / ラミ・マレック『ボヘミアン・ラプソディ』 / トミー・フラナガン『エイリアンVSプレデター』 / イヴ・ヒューソン『ブリッジ・オブ・スパイ』 原作『パピヨン』 4月河出書房新社より発売中

文：宮崎千尋（映画ライター）